

Hold on Together ♥ てをつなごう

カトリック 新庄教会報

Kapit Kamay

カピット カマイ 12

カトリック新庄教会 〒999-4601 最上郡舟形町舟形 445-1 10周年記念号
Tel.0233-32-0234 Fax.0233-32-0243
<http://www.catholic-yamagata.com/shinjo-church/>



菊地大司教を迎え記念ミサ 2020年11月29日 新庄教会が創立10周年

菊地功大司教インタビュー

2020年11月29日のミサ前に
カトリック新庄教会にて

(千原神父) この度は、新庄教会10周年のために来てくださりまして、ありがとうございます。大司教様が新潟におられた時にこの教会ができた訳ですが、当時のことを振り返ってお話くださればと思います。

(菊地大司教) 最初に新庄に来た時は公共の施設に集まってミサを捧げたのですが、2回目に来た時に、たしか2005年だったと思いますけれども、当時のピアス神父様と金山町の信徒のお宅でミサをした時に結構たくさんの方が集まっていて、ミサ後、各地にどれくらいの方がいるのが数えてもらったら90人以上、100人近い人たちがこの地域に定住しているということが分かって、これは何かしなくてはいけないだろうなど。そ

の時はいろいろな場所を放浪しながらミサをしていたので、そういう場所が必要であるということ、本人たちも教会が必要だというリクエストがあり、何とかしようという話をしていました。でも、そう簡単に何とかなるものではないので、ピアス神父様の後任で来た本間神父様が、いろいろな場所を見つけてきては一緒に見に行ったりしましたが、なかなかなかったわけです。ある日突然、この幼稚園が移転して空きましたという話が出てきて、そこからはトントン拍子に話が進んでいきました。場所的にも、周りに何も無いというのが大きかったですし、建物も、ちょうどいいサイズであったわけですね。その間に、ここの共同体の人たちが一生懸命いろいろなところ呼びかけて、

支援者を作って、教区の外にも支援者がたくさん出てきて、そのおかげですね。だから、自分たちでつくっていった教会という意識がとても強かったのかなと思っています。

(千原神父) そして、2010年に教会が生まれて、最初に日本カトリック難民移住移動者委員会の全国研修会が開かれて、新庄教会がオープンしたわけですね。その頃はいかがでしたか？

(菊地大司教) フランシスコ会のフーベルト神父様が難民移住移動者委員会の新潟教区の担当であった時、研修会を新潟教区で、しかもこの新庄教会でやることになったんですね。ですから、非常によかったと思います。この地域にはすごく特別な歴史がありますよね。地域の行政が関わって、フィリピンとか韓国とかからお嫁さんたちを組織的に呼んできて、しかも、呼んできた後のケア、日本語の教育だとか、いろいろなことを考えながら地域に根付いてもらおうとしていたところなので、そういう意味でもそれを全国的に知ってもらえたらいいなと。わたし自身もいろいろなところでそういうことを書いていたので、カトリックの雑誌とか連載などがありましたから。1970年代に、すでに朝日新聞の、もう亡くなりましたが、松井やよりさんが取り上げて書いて注目されていた地域でしたから、この地域の人たちと外国から来られた方々との関わりという意味でも、一つのモデルとして全国に知られたらいいという思いがありました。それでたくさんの方に来ていただいて、知ってもらえたというのもよかったですし、聖堂の祝別式をした時に全国のいろいろなところから来てくださった人たちが一緒にいたので、この共同体の人たちにとっても非常に勇気づけになりましたよね、全国から自分たちは支えられているという思いが。

(千原神父) 自信と誇りになったんですね。

(菊地大司教) そうですね。

(千原神父) 素晴らしかったですね。この教会も、そういうふうに根付いていって、菊地大司教様も新潟教区長であられた時に何度もお越しくださいまして、「雪の聖母」という独特のお祝いの時も来ていただきました。何か思い出はありますか？

(菊地大司教) いちばん心配していたのが、この信徒の共同体の大部分がフィリピンの方で日本人の信徒の方が数人しかないという中で、将来のことも考えて、地域に残っていくために日本人の信徒も必要なので、それをもうちょっと何かできないかなという思いはありました。それから豪雪地帯なので維持費がかかりますよね、除雪費や雪下ろしにもお金がかかりますし、建物も定期的に手を入れていかないと駄目になるし、そのためには、やはりしっかりとお互いが結び合わされた強い共同体の存在が必要なので、それはただ放っておいたら強い共同体になるわけではないです。最初の頃は、フィリピン人の人たちの中でもみんながみんな仲がいいわけではないですから、いろいろとグループができてきて、最初の頃は危機的な状況があったとは思いますが、そういった意味では定期的にできるだけ来て、放っておかれているのではないのだと感じてもらったかったというのはすごくありますよね。でも、ずっと来ていって、冬の「雪の聖母」の時に外の雪の中で捧げるお祈りが印象的で、しかも暑い国のフィリピンから来た人たちが雪の中でローソクを掲げてお祈りしながら歩いているというのが、すごく象徴的だといつも思っていました。

(千原神父) ところで、コロナ禍で今わたしたちは大変な時期を過ごしています。大司教様も、ことあるごとに教会のあり方が問われているとお話しされています。教会に集まれない、訪



問もできないという中で、大きなチャレンジを受けていると思います。そのことについてお願いします。

(菊地大司教) じつはミサの中でもお話ししようと思っているのですが、この建物ができる前の何年もの間、建物のない中で定期的にどこかに集まってミサをしたりとか、いろいろな形でお互いに連絡を取り合ったりとか、それで共同体作りが進んでいたと思うんですね。まさしく今はそれが重要な意味を持っている時で、建物に集まってくるのが難しい状況の中でお互いの関係性をどう保っていくのかという、それをこの共同体はすでに体験した上でこの建物に行き着いているので、そのときの状況を忘れてほしくないと思います。だから、パイオニアの、ゼロから築きあげてきた過程がすごく重要だったと思います。

(千原神父) それを思い起こすことが大事なんですね。きょうのお説教もありますけれども、お祝いの言葉をお願いできればと思います。

(菊地大司教) 10年前、最初できた時に、さあ、これから先どうなっていくだろうと、少し心配だったですね。あつという間に崩壊してしまうのではないかと、維持できないのではないかとありましたが、10年これだけしっかりと共同体を保ってきて、自分たちだけでなくいろいろな人が来るようになっていって、これからもどんどん発展していく形で、しっかりと地域に根ざした教会に作り上げていっていただければなと思います。

(千原神父) ありがとうございます。わたしもここに来て5年経ちましたけど、何をやってきたのかなと反省しきりなのですが。

(菊地大司教) 皆さん、本当によくやっていると思いますよ。

(千原神父) ええ、やはり自分たちの教会ができたという喜びが大きいですね。きょうはありがとうございました。

(菊地大司教) ありがとうございます。

お祝いのことば

カトリック新潟教区司教 成井 大 介

新庄教会共同体の皆様、聖堂献堂10周年、誠にありがとうございます。心からお祝い申し上げます。Congratulations! 司牧を担当してこられたイエズス・マリアの聖心会の皆様、また遠くからミサのために駆けつけて下さっている神父様方、修道者、信徒の皆様、歩みを共にして下さり心から感謝申し上げます。

新庄教会の皆様にとって、10年前に建物としての教会ができたことはとても大きな喜びであったと思います。しかしそれからの10年間、共同体として福音を生き、伝えるために組織を整え、地域の人々に開かれ、少しずつメンバーが多様化して来たことは、さらに素晴らしい事ではなかったかと思えます。

菊地大司教様が新潟教区の司教でおられた時、私は度々「宣教共同体としての新庄教会共同体」という話を聞きました。フィリピンから来た皆さんは、周りの人たちを教会に連れてきたり、キリスト教のことを何らかの形で伝えたりする宣教師だと言っておられました。菊地大司教様はこの話をする時、いつもとてもうれしそうに話していたのを覚えています。私はいつか新庄を訪問してみたいと願っていましたが、東日本大震災の関連で仙台で活動していた時、2回ほど訪問の機会をいただき、共同体の皆さんのパワフルなエネルギーに元気づけられました。感謝しています。

新庄ですでに1956年からイエズス・マリアの聖心会の神父様が宣教を始めていました。1987年からは新庄市役所からの依頼で、フィリピン出身の皆様のために文化会館などの施設でミサが行われるようになりました。そしてついに、2010年10月28日に現在の聖堂が献堂され、それから10年が経ちまし



た。今は、日本の方、ベトナムからの方も加わり、より豊かな共同体に成長されたと思います。これからも、地域に開かれ、ともに神様の愛を証する宣教共同体として歩んでいかれますように。神の祝福と導きがありますよう聖母の取り次ぎを願ってお祈りいたします。

2010 夢が叶った日 新庄教会献堂式 2010年10月28日



11年目からの夢に向かって

イエズス・マリアの聖心会
管区長 本間 研二



早いものでカトリック新庄教会が献堂されて10年目を迎えたのですね。まさに「光陰矢の如く、月日が流れるのを感じます。お客さんが帰った後のラーメン屋さん、古びた旅館の広間、ホテルの会議室、新庄市や鮭川村の公民館や多目的ホールと様々な施設をまるでジブシーのように転々と移動してのミサを皆さんは10年以上もつづけたのですね。

前任者から引き継いだ私も、たびたび変わるミサの会場へと足を運びましたが、内気な私は、最初は皆さんとなかなか打ち解けることができず苦しんだのを今でも覚えています。それでも少しずつお互いの心の距離が近づき親しくなってきた頃、「自分たちの教会が欲しい」という声が誰からとなくたち始めました。

いつまでも借り物の会場を転々と渡り歩くのではなく、自分たちの教会が欲しいというひとり一人のひたむきな思いは、私の心にも強く伝わってきました。皆さんの切望する「夢、を何と叶えられたらとも思いました。しかし当時の新庄教会には建てるための「金なし、土地なし、当てはなし」の状態です。「新庄教会建設計画」は、まったく雲をつかむようなところからのスタートだったのです。

でもそのことは「夢は持ちつづけければ、いつか叶う」と言うことを、ひとり一人が実感する機会ともなりましたし、さらに多くの方々に伝える機会にもなったように思います。もちろん夢を持ちつづけければ、願い事が魔法のようにパッと叶うということではありません。そうではなく「夢を持ちつづけながら自らも努力する人」には、理解者、同調者、協力者が増え、夢を叶える助け手が、きっと夢の後押しをしてくれるということです。

新庄教会の皆さんには、そんな協力者、助け手がたくさんいました。当時新潟教区の菊地司教様は力強く支え、後押しをしてくれました。新庄教会の建つ場所を何力所も下見をしてお世話してくれたのは山形教会の信徒の方です。半分朽ち果てていた元幼稚園だった建物を見事に教会らしくリニューアルしてくれたのは酒田教会の信徒の方です。また冬には3メートルもの雪に埋もれる教会を、毎冬無料で除雪してくれたのは大蔵村の土木会社の社長さんでした。そして何よりも山形県、茨城県の方々の各小教区の方々は惜しまずご尽力くださいました。そんな多くの方々の多方面にわたる協力によって支えられ、形となったのが、夢の結晶「カトリック新庄教会」なのです。

そのカトリック新庄教会が10年の節目の時を迎えました。自分たちの教会を建てたいという「夢」を持ちつづけ、それを実現された新庄教会のひとり一人に、心からの敬意とお祝いを申し上げます。そして教会建設のために尽力して下さったすべての方々に改めて感謝致申し上げます。

新庄教会は、今日からまた11年目の歩みを始めました。夢を叶えた皆さんが、これから新たな「夢」に向かって歩いていかれますように、そして人々に夢を与え、夢を手助けする存在となりますように切に願っています。ひとり一人が「カピット・カマイ」共に心をつなげて!



近所の方々の訪問(舟形町の西堀老人クラブのメンバー12名と健康介護班1名が、教会の見学に訪れてくれました。)



初めてのクリスマスパーティー(舟形地区の皆さんも参加して頂いて、素晴らしいクリスマスパーティーになりました。)

神と地域の皆さんに愛されて —新庄教会10年の歩みとこれから—

新庄教会主任司祭
千原 通明



わたしが主任司祭として赴任したのは2015年。新庄教会が舟形町に生まれて5年目の時でした。

新庄教会は、田園風景の、少し丘の上の方にあり、桜や栗などの木々に囲まれています。桜の美しい時期には、町内の方々を招いてのお花見を開催したり、秋のバザーに来ていただいたりしました。クリスマスや復活祭の大きなお祝いの時も、町内の皆さんを招いて、ご近所の方々が参加してくださいました。また、夏場の雑草の草刈りでは、何人もの方々が協力してくださいました。困ったときには、すぐに助けてくださり、本当に感謝しています。町内会長さんをはじめ、町内の方々には、いつも心をかけていただき、感謝しています。

新庄教会は、しっかりと地域の皆さんに受け入れられ、大切



にされてきているのです。

例えば、教会の信徒の皆さんの多くはフィリピンから嫁いできた方々です。田舎の伝統を重んじる環境の中で、また、冬の厳しさの中で、彼女たちは努力して、地域の中に根ざそうとがんばってきました。本当に大変だったと思います。その彼女たちの心の拠り所となったのが日曜日のミサでした。そして、ロザリオなど、共に祈ることだったのです。彼女たちは本当によく祈る人たちです。そして彼女たちの信仰が、いまの新庄教会の姿に結実しました。その姿を、神と地域の皆さんがずっと見守り続けています。

新庄教会の共同体は、これから真の共同体になっていくために、さらに成長していかなければなりません。これからも、地域の皆さんとの関わりを大切にしながら、信仰を分かち合い、キリストの愛の道を歩んでまいりましょう。



2011-4-3 Shinjo Catholic Church First Baptism (One family Victim of tsunami 3-11) From Fukushima 1カ月程新庄カトリック教会に避難しました。



岩手県(大船渡教会と陸前高田の皆さん)から新庄に訪問されました。



お祝いのことば

ホセ・ルイス・ロレンゾ神父
Fr. Jose Luis Lorenzo, SVD

I am very pleased to join the Shinjo Catholic community in their celebration of the 10th anniversary of the church foundation. My prayer is that the members might continue their efforts to make church and the community a beacon to all the other Catholics living in the area as well the non-Christians around. Please be assured of my prayers and continued support. May God give us all a zeal to live the gospel so that we may be witnesses to other's always. Congratulations again and may God bless you always.

お祝いのことば

ルスニ・ベララウエ神父
Fr. Rusni Belalawe, ssc

Dear parishioners of Shinjo Catholic Church. Happy 10th Anniversary of your community. May God bless and guide all of you in your lives especially in your services to the church. All of you have journeyed from the beginning with lots of experiences that have shaped the community that opened for every backgrounds. Shinjo Catholic Church has been growing as one family that everybody feels welcome. The presence of this church has been unique because most of the parishioners are coming from foreign land. The growth of your community is at your hand. I hope that this 10th anniversary will give more courage and faith to trust in God. Once again congratulations to all of you.



2月11・12日の2日間にわたって「雪の聖母」の教会のお祝いをしました。



3月11日にノエル・フラビアーノ神父による初めてのタガログ語によるミサ。



第一回仙台教区外国人信徒集会(福島市)に参加。



10月21日に、第二回目のバザールが行われました。



お祝いのことば

ブライアン神父

Fr. Don Brian Malnegro, ss.cc.

May the good Lord bless your parish priest and all the parishioners under the Shinjo Church. Please support one another.



お祝いのことば

寺田 勇文

献堂10周年おめでとうございます。東日本大震災の後、大船渡教会の人達から、新庄教会にフィリピン人出身の方が多数おられると聞き、2012年10月の2周年のミサのときに初めてうかがいました。それ以来、年に一度か二度の訪問を楽しみにしています。新庄市をはじめ、この地方の広大な地域で信徒の共同体を築いてきた教会。これからの教会のモデルの一つになるかも知れませんね。皆さん、どうぞお元気でクリスマスを迎えて下さい。



感謝のことば

齋藤 悦子

待ち続けた新庄に教会を多くの方々の祈りとご協力と応援で完成した教会です。あの感動の日から早いもので10年、東日本大震災があり、今新型コロナ感染症で多くの人々が待機を強いられております。

教会への足止めも、せざるを得ませんでした。その中で信仰を守る大きなポイントとは、何でしょうか。これを機に個々に与えられたチャンスとして捉え、見つめて行きたいと思います。

2013



5月5日、山口亮二を迎えチャリティーコンサートを行う。



6月22日に新潟カトリック女性の会の皆さんと大瀧神父様が新庄教会を訪問。



9月1日、菊地司教様の公式訪問で7人が堅信の秘跡をさずかる。



9月22日、待ちに待った大船渡教会への巡礼。

つながり、神の愛へ向かう道！

長南 ジュリエット



フィリピン諸島の異なる地域からやって来て、私たちは自分の家族、友人、そして教会から切り離されました。そう感じる理由といえばただ一つ、私たちが国から送り出され、ここ日本で再び一カ所に集められたただだからだと思います。

けれども、私たちは地上において神のみ旨が計画したものの一部です。同じ信仰を告白し、生贄(いけにえ)である同じ秘跡によって神の民として神に應え、聖霊に導かれ、そして互いの交わりに招かれるよう計画されています。

カトリック新庄教会が10周年を祝うに当たって、共同体の一人一人、そして皆さんにすばらしい祝福がありますように。

日本に暮らして32年になります。私はフィリピンで生まれましたが、日本での生活は生まれ故郷で過ごした時間よりもますます長くなっています。

教会のお世話をするのは、私にとって神から得た貴重な賜物を生かす機会でした。私はその賜物を共同体への奉仕に用いたいと心から願っています。教会共同体のリーダーとして、私は目標に忠実で、創造的思考や影響力を持つだけでなく、良識が豊かに与えられていなければなりません。弱さや挫折は神からの愛の贈り物であることを知って、私は痛みの中にあってもなお神を賛美するのです。そこには誠実さがありました。そして、教会に奉仕する中で私たちが目的を果たせるよう共同体の

活力を導く責任感がありました。「愛を求めているなら、愛を与えなければならぬ」のだと私は理解することができました。私たちは愛せなければなりません。

加えて、私たちにはミサの聖体祭儀における霊的な交わり、強い愛の絆、そして私たちをととても大切な者として神の愛に続く道に置いてくださった神への献身があります。

まだ私たちに教会がなくても、インスピレーションが与えられていた頃のことは決して忘れられません。教会ができて私たちの幸せが実現する日を夢見ながら、人生を本当に美しいものにするためにお互いに助け合っていたのです。

私たちは次の段階に移りますが、私たちがこれからさらに10年以上先へ向けて挑戦を始める時にも、教会建設の中で得た共同体の発展と、温かい友好的な雰囲気これからも続くようお願い、祈っています。ご聖体の素晴らしい秘跡の中にある命の新しさにおいて、より信仰深い献身的なカトリック信者へと成長するためにあらゆる機会を生かしてまいります。

10周年おめでとう！ 新庄カトリック教会に万歳！

The Chain, in the channels of His love!

Coming from the different district of the Philippine Islands, we have been separated from our families, friends and churches we belong. I think, the one and only reason for this, is that we are meant to be send out of our country and then again only to be gathered once again in one place here in Japan.

We are then a part of the design in Gods' will on earth, to comply as people of God in the fulfillment of professing the same faith, having the same sacrifice and sacraments, guided by the holy spirit, destined to be called in communion with each other.

As Shinjo Catholic Church celebrates its 10th anniversary, a wonderful blessing to each and everyone in the community. It also adds another year of life in Japan that makes a total of 32 years. Being born in the Philippines, the length of stay in Japan becomes longer and longer than that in my birthplace.

Taking care of the church had been an opportunity for me to put into action the precious gifts acquired from God. I am so eager enough to make use of it to be of service to the community. As a Christian leader I am apt to adhere the aim for success, a creative thinking, be influential, and must be endowed with a lot of common sense. Realizing that the weaknesses and frustrations as a gift of love from God and praises God still in spite of the hurt. There was an integrity, a sense of responsibility that directs an energy towards the fulfillment of our purpose in the service of the Church. I was able to understand that, "If I want to keep love I must give it away." The capacity to love is a necessity. Over and above these, we have spiritual communion in our Eucharistic celebration of the mass, the strong ties of love and devotion to the God who made us very important persons to be in the channels of His love.

I will never forget those days when we didn't have the church yet, the inspiration was there, helping each other to give a share in making life a real beautiful one, like we always dream to attain happiness when the church had been finally existed.

Moving on to the next, we hope and pray that our development we had been in making the Church, having a warm friendly atmosphere will continue as we go on and be challenge to start another 10 years and more to come using every opportunity to grow into dedicated Catholics of deeper faith, in the newness of life in the wonderful Sacrament of the Eucharist.

Happy 10th Anniversary! Long live to Shinjo Catholic Church! (Juliet Chonan)



Warm support and prayers

Joshi Hashimi

How really time flies by! This year we celebrate the 10th year anniversary of Shinjo Catholic Church and we are very thankful for this. I would like to thank everyone for all the warm support and prayers during the ups and downs we have had within. Let's always be one as Shinjo Catholic faithful!

Happy anniversary and more years to come! Thank you! ♥



新庄教会はもう一つの家族

五十嵐 春香

小さな頃から夢見てきた「自分たちの教会」が出来た時の事今でも新鮮に覚えています。「思いは招く」思い続け行動してきた夢はこうやって叶うんだな、と当時学生だった私に勇気と感動をくれました。新庄教会は私のもう一つの家族でありもう一つ帰る場所。いつも私に愛と優しさをくれました。私の沢山の“アテ”達(アテ=タガログ語でお姉さん!笑)の笑顔と笑い声あふれる新庄教会が大好きです。

10周年本当におめでとうございます。これからもたくさんの人に愛と優しさと勇気を与え続けてください。



Long Live Shinjo Catholic Church

Melissa Kadowaki

"God continues to sustain His creation operating with in history to fulfill His redemptive purpose."

Everything is possible with God's Devine power and providence. Because God wants us to fulfill His mission, to be His disciples and equip everyone to be of what we want, He provides us what we need. We, in Shinjo Catholic church is among the luckiest to have the "household of God" from nowhere. It was such a fulfillment to have such a place of diversity, maintenance and rehabilitation of moral power. Most of all is the school for education of souls for we have our imperfections.

For 10 year in mission was not that easy. There were ups and downs but was not a hindrance. Since God was always guiding, it was a challenge to be more united as one family of Christians to continue to spread the words of God and to remind everyone to fulfill their duties as children and people of God, configure each number for a full and active mission of service to Christ. Celebration of 10 years will be the stepping stone for better, renewed and brighter Christians.

To all the missionaries, parishioners/ members of Shinjo Catholic Church, Congratulations. Continue to serve God and people for continuously nurturing the community and bringing more Christians closer to God. May we continue our patronage and trust to God the Almighty.



Spring



Summer



Autumn



Winter



5月5日、本間神父、司祭叙階25周年の記念式典でダンスを披露。



5月24日、本間神父と一緒にフィリピンへ。(マイケル神父の司祭叙階式に参加。)



10月26日、ヒーリー神父、本間神父、伴神父、バンビ神父とミサ・バザーを開催。



11月1日、ロレンソ神父を迎えタガログ語のミサが行われました。



3月28日、7年間新庄教会を司牧された本間神父と別れを惜しむ送別会。



4月、千原神父は10年、楠神父は20年の年月を経て再び山形へ戻ってこられました。



6月14日、楠神父、ジャン・ピエール神父、ブラザー中沢によるミサが行われました。



8月、二泊三日のサマースクールにたくさんのお子どもたちが参加しました。



9月5日・6日、デインド・サンチアゴ神父によるタガログ語ミサが行われました。



12月6日、フィリピンで15年間働いた新潟・亀田教会の山頭神父を迎えて。



2月6日・7日、菊地司教を迎え「雪の聖母祭」のお祝いをしました。



3月27日、新庄教会で復活祭。カナダに帰るSr.ミシュリンの送別会も行いました。



5月29日、新庄教会で初めてのフロレス・デ・マヨ(5月の花祭り=マリア祭)を行う。



10月28日、新庄教会の献堂記念日。フィリピン料理を作りお祝いをしました。



4月16日、サンチアゴ神父を迎え、多くの方々と共にお祝った復活祭。



5月14日、5人の子どもたちが初聖体の秘跡にあずかる。





2019

2月9日・10日、菊地大司教はじめ、多くのゲストを迎えての「雪の聖母祭」。



8月3日、新庄教会を会場にサマースクールが行われました。



11月、新庄教会献堂9周年の記念ミサ。ミサ後はバーベキューでお祝いをしました。



12月、葛西教会からルルドの聖母像が寄付されました。



2020

ブライアン神父が新庄教会で初ミサを行いました。



初聖体の秘跡を受けました。



11月22日、新庄教会でアンさん一家(ベトナム人家族)の2番目のお子さんの洗礼式が行われました。

編集後記

新庄教会献堂10周年は、本来でしたら山形地区大会の中で行われるはずでした。が、このコロナ禍により大会は中止。内輪だけのお祝いになりました。が、元々来られる予定だった菊地功大司教様が東京から来てくださいました。そこで実現したのが巻頭のインタビューです。小さなお祝いでしたが、これまでの歩みを振り返り、感謝するよい機会になりました。この記念報が、その記憶を残すものとなりますように願っています。カピットカマイは、山形教会の小林雅人さんが毎回編集と印刷をしてくださっています。今回も、無償で引き受けてくださいました。心から感謝いたします。

千原通明